

## 初夏を想う

泉水の風に散り  
人々、そして街

降り注ぐ日の光に一滴<sup>ひとしずく</sup>を

冷んやりとした石造に寄りかかり

靴音の楽しげな絵画

全ゆる者が上を向き

きらめきと温もりとを

(ひとりであることは)

少しばかり眠たそうな

窓ガラスの反射の

僕はつまり座っている

噴水のしぶきを浴びて

(影は緑にすきとほり)

腕をつっぱって

賑やかな会話は咳きと

鮮やかな色彩は一本の笛と

静かに目を閉じる

(ここは草原の丘)

自由の中に花が咲き

淀の下にも花が咲き

目を開けばそこにあった

愛すべき僕の街

(1985.1.12)